

2月27日（火）その139 日本女子メダルにまつわる4つの話題

「赤いサイロ」というチーズケーキが売れに売れて、受注ストップになっているという。急きょ増産体制をとったが、注文は増える一方でインターネット注文では3か月待ちとなったため、製造元の老舗菓子店「清月」（せいげつ）は、受注を一時ストップした。

ピョンチャン五輪のカーリング女子日本代表「LS 北見」のプレー中の選手の作戦会議中の生声や前半戦終了後に軽食をほおぼる「もぐもぐタイム」（正式には「デッドタイム」）が、注目を集めている。いちごやリンゴ、バナナやお菓子などをほおぼりながら作戦を立てる「もぐもぐタイム」は、毎日何を食べたかテレビで特集が組まれるほど人気であるらしい。彼女たちが食べた北海道北見市の銘菓「赤いサイロ」が注目を集め、全国から注文が殺到しているのだ。また彼女らの「そだねー」という言葉が心地よく耳につく。ネットでは、早くも「流行語大賞」の声が上がっている。

私は土曜日の韓国戦、日曜日のイギリス戦を最初から最後まで観てしまった。両試合とも大接戦だった。韓国戦では、同点で延長戦になったが、韓国に最後の一投を決められてしまった。結果論だが、初回に3点取られたのが最後まで響いた。残念！イギリス戦はお互いに我慢の試合だったが、最後はイギリスのミスで銅メダルが転がり込んで来た。二試合とも最後の一投で決着がついたすごい試合だった。

女子スピードスケートの「追い抜き（チームパシュート）」で日本が金メダルを獲得した。個人競技のメダリストをズラリと並べた最強国オランダが「個の力」で勝負に来たが、日本は団体戦ゆえの「和の力」で臨んだ。

日本チームは3人の手や足がリンクして動き、一糸乱れぬ計算されつくした隊列だった。年間300日の合宿を張り、ライバル国のオランダからデビットコーチを招いた。風洞実験等で空気抵抗を減らすための戦術を科学的に研究したそうで「チーム力」の勝利だった。「うん、そだねー」（笑）

また500mスピードスケートで金メダルを取った小平奈緒選手。試合後、感動的な場面があった。同種目は韓国のイ・サンファ選手が2連覇中で、小平とは10年来のライバルで友人でもあるという。韓国国民の期待を一身に背負ったがイ・サンファ選手の3連覇はならなかった。小平はイ・サンファに駆け寄り、「チャレツソ（よくやった）」と語りかけ、「私はあなたをリスペクト（尊敬）している」と伝えたそう。イ・サンファは、泣き崩れながらも小平にしがみついた。この光景は韓国でも大々的に報道されたようだ。

私もLIVEでその光景を見た。日本と韓国は、いろいろな面でいがみ合っているけど二人の「オリンピック・スピリッツ」に涙が出た。

また韓国のキム・ボルムは、「追い抜き」で敗退した後、笑いながら「意思疎通ができなかった」と、大きく遅れた3番手の選手を非難するような発言をした。そのため韓国では「責任転嫁！」と激しい批判の嵐にさらされ、彼女のインスタグラムは「大炎上」し、大統領府に代表選手の資格を剥奪するよう50万人の署名が寄せられているという。キム・ボルムは高木菜那が「金」を取ったマススタートで銀メダルを獲得したが、韓国国旗を前に置き、スタンドに向かって土下座しひれ伏した。ネット社会は怖い!!

2月28日（水）その140 脚下照顧Ⅷ（THE NEXT ONE）

今日で2月が終わりですね。今年も後 10 か月（306 日）しかない。（笑）さて、「その 131」で予告したように、所長講話を製本するので（脚下照顧Ⅷ）、しばらくお休みをして、その準備作業に入ります。目次がわりにタイトルだけでなく3行で内容紹介も添えたいと考えています。それだけで11ページになります。また少し写真もつけるので全160ページくらいかな？

1 実践はまとめなさいね！

新採用で西表・船浮中に赴任してすぐの5月に隣の白浜小で研究授業があって、モーターボートに乗って見に行ったことがあった。50 過ぎの小さな先生だった。授業が始まって、私の頭の中で稲妻が走った。「何でこの先生は、こんなすごい授業ができるのだろうか？」5、6年の複式の算数の授業だった。ガイドと呼ばれる児童がそれぞれ授業を進めていくのだ。先生は「渡り」をしながら、ときどきガイドにアドバイスをしている。「主体的、対話的で深い学び」は、40年前にもあったのだ。授業をなさった仲村貞子先生は、研究教員で北海道に2度派遣され、沖縄に初めて「ガイド学習」を持ち込んできた方だと後で知った。

帰りのボートの中で、何か吹っ切れるものを感じた。潮風が心地よかった。「自己研鑽はどこにいてもできる。船浮でもできる。」と強く思った。それまで正直、あせりがあった。「自分は1人2人の生徒に家庭教師のような授業ばかりをしている。本島に採用された人たちは、学級経営や生徒指導、教科指導等たくさんのことを学んでいるだろうに……。」と思っていた。

授業研究会で仲村先生から、「朗さん、大和（ヤマトウ・他府県）の先生たちはねえ、ちょっとした実践でもすぐにまとめて発表するの。まとめるのが上手なのよ。沖縄の先生方は素晴らしい実践をしている人も多いけど、まとめることが下手ね。あなたは自分の実践をまとめるようにしなさい。」と言われた。私は、「うん、そだねー！」と答えた。（笑）

次の週くらいから数学（中1・2・3）の指導略案を書いて、授業に臨むようにした。2年目と3年目は中学校の生徒が一人だけだったので、3年間で合計500枚以上の指導案を書いた。B4用紙一枚の授業の流れや生徒や教師の活動のみを書いたものだが、500枚の指導案を持つてみるとずっしりと重かった。今となっては非常に惜しいことをしたと思っているが、船浮中から転勤するときには全て燃やしてしまった。「こんな未熟な殴り書きを使うことはもうないだろう」と考えてしまった。指導主事になって教員研修を担当するようになって、書かれている内容ではなく、手書き文書のその量を見せることで刺激をもらえる人もいたのではないかな？……残念である。

2 「脚下照顧」でまとめた実践録

私は勤務した学校で実践したことを実践録（学級通信や学級経営案、教科の指導案等）として数多くまとめて冊子にした。

渡名喜中では3年間の実践録を「脚下照顧」（きゃっかしょうこ）というタイトルをつけて製本した。なんと500ページの超大作だ。（笑）

「その75」でも書いたが、「脚下照顧」という言葉は当時の校長からいた

だいた言葉で、妙に私の心に引っかかった。「脚下（あしもと）を照らして己を顧りみる」と読める。禅の言葉で「他人のことをとやかく言う前に、自分の足下をしっかりと見なさい。」という意味で、転じて「履き物をそろえる」という意味で使われていたらしい。私は「自分の立っている場所を深く掘れ、そこに泉ありき」という言葉を胸に刻んでいたの、ストーンと心に落ちた。「自分が立っている場所をしっかりと見つめて、背伸びせず、しっかりと一歩一歩努力を重ねて行きなさい」という意味だと捉えて、心に刻んだ。

平成10年に南風原中で教務主任をやり、次の年から管理職になることが決まったので、それまでの19年間の教員生活前半（教諭時代）を振り返り、「脚下照顧Ⅱ」として実践の概要を冊子にまとめ自分を見つめた。また与那原中の教頭としての3年間の実践の中からいくつかを「脚下照顧Ⅲ」としてまとめた。「脚下照顧Ⅳ」は、三原小校長としての職員用通信で、これは冊子にはしていない。しかしその後の大里中、東風平中でも全く同じようにして徹底して実践した。「脚下照顧Ⅴ」は大里中での校長としての「3つの目標の取組や校長講話のシステム化（学校全体で取り組むマニュアルづくり）」をまとめた。「脚下照顧Ⅵ、Ⅶ」は265話の「義務教育課長講話」である。

「書くことは正確な人間を作る。」皆さんも経験があると思うが、自分がよく考えていてよく実践していることでも「まとめる」となると、曖昧な部分があったりして筆が止まることがよくある。あえてそれに挑戦することで、自分のそれまでの実践を整理したり、曖昧な部分をきちんと埋めたりすることができる。

私は若い頃に「THE NEXT ONE」（私の代表作は、次の作品です。）という言葉にも出会っていた。（所長講話「その10」参照）確かにその時までには自慢できることや成果の出た実践等があった。でも次の年にはそれを捨てて、新しいことに挑戦した。毎年「この一年の実践こそが、自分の最高傑作」という思いで頑張ってきた。

皆さんも自分の実践を一つ一つ積み上げて、「全校的な視野を持つこと」も頭に入れ、残りの20年弱の教員生活を頑張りたい。

3 「脚下照顧Ⅷ」で自己研鑽！

「所長講話」は島尻教育研究所の研修員だけに語るのではなく、ネットで公開し島尻じゅうの先生方が読めるようにした。「島尻は一つ」なのだ。島尻教育事務所と島尻教育研究所は、軌を一にして教職員研修に取り組んでいるのだ。研修の中でも、自ら求めていく「自主研修」こそが、一番力を伸ばしてくれると思う。自ら進んでネットを開いて「所長講話」を読むことは、自主研修と捉えることができる。できたら何らかの刺激を受け、それぞれの目線で「目の前の子ども達のために、頑張ろう！」という気持ちになってもらえたら嬉しい。「脚下照顧Ⅷ」を各先生方が俯瞰的に観て活用し、それぞれの方法でそれぞれの力量をさらに高めてほしい。

このページを読んだ皆さん!!ラストチャンスです。所長講話を製本した「脚下照顧Ⅷ」の冊子を無料で「120人」の方に差し上げます。次のページに添付されている申込用紙に必要事項を書いて、FAX等でお申し込み下さい。印刷所に部数を報告するので、3月12日（月）必着分まで受け付けます!!
人数がオーバーしたら? 「うん、そだねー、増刷しようかな!」（笑）

この用紙をダウンロードして、お使い下さい。

〒 901-0401 八重瀬町字東風平 965 番地 南部広域行政組合内
島尻教育研究所長 大城 朗あて

電話 098-998-9561 FAX 098-998-9420

「脚下照顧Ⅷ」 申込用紙

◎受け取り方法

下記の①、②、③のいずれかを選択し、必要事項をお書き下さい。

①、②の場合は、FAX 送信して下さい。

③の場合は、封書で島尻教育研究所（大城朗）あて郵送してください。

①	島尻地区の学校なので、 <u>島尻教育事務所のBOX</u> に入れて下さい。	[鑑なし・この用紙のみを、FAX 送信して下さい。] 学校名 氏名
②	研究所まで取りに行きます。 (受取期間は、後日 所長講話で連絡)	[鑑なし・この用紙のみを、FAX 送信して下さい。] 所属または住所 氏名
③	郵送して下さい。 郵送料は 300 円です。 (ゆうメール) 300円分の切手を、 この用紙のどこかに ちょこんとのり付けし てください。(すぐは がして使えるよう、お 願います。)	[必ず封書で送付してください。] 〒 住所 氏名
通信欄		